

小林 人

こばやしひと
Vol.51



帽子と名札が少年補導員の証

「過去に接した少年少女と会話をしたり、立派な父や母になっていく姿を見ると心がなごみます」。

大畑忠正さん(70)は、野尻町東麓は、地域の子どものための非行防止や健全育成に取り組む少年補導員。日常的な地域の見回りや、祭りの際などにパトロールを行っている。昭和58年に委嘱を受けて今年で32年目。市内に27人いる少年補導員で組織する「少年補導連絡会」の会長を務める。

少年補導員になったのは38歳のころ。子どもが通った野尻小・中学校のPTAの役員として活動し、先輩に誘われ少年補導員に。

「昭和60年代は、シンナー

遊びや万引きなどが多発していた、その対策に苦慮していました」。

この事態をなんとかしようと、大畑さんたちは関係機関との協議の場を増やし、啓発に力を入れた。そして新たに始めたのが少年グループとの交流会。小林警察署、駐在所や地域に参加を呼びかけ、ソフトボールなどのスポーツ大会を開催した。

「雑談で大人への緊張もほぐれ、少年たちも自信が生まれたようでした」。さらに「家族の会話の話題になれば」と参加賞に台所用品を少年たちに配った。

「本当に悪い子はいないと思う。身の置き所がない

育てよう。地域ぐるみで。」

がなかったりして、どうしようもなく非行に走ってしまうのでは。子どもは地域や家庭の鏡でもあると思います。まずは親や地域の大人が、子どもたちと交流し、見本を見せることが大事」。

こういった活動の成果や熱意が認められ、旧野尻町から補助を受けて「青少年をすこやかに育む連絡協議会(略称:すこやか会)」を発足。町全体を巻き込んだイベント、啓発パレードなどを企画した。夏休みには自治公民館など40を超える会場で座談会を開催。千

人を超える参加者と交流し、「親や地域の大人がどうあるべきか」を皆で話し合った。

「あれから数年。他の地区と比べ、非行の件数は低位置を維持し続けています。多くの人の協力のおかげ」と頬を緩めた。

しかし、夏休みに入ったこの時期は、非行も増えやすい。大きな夏祭りも市内裏側で、子どもたちが道を逸れないように厳しくやさしく寄り添う人たちがいることを覚えておきたい。

子どもも変わる。

育てよう。地域ぐるみで。

「早めに非行の芽を摘み、立ち直るきっかけを与えてやりたい」と話す大畑さん。牛乳配達で使用する愛車には「子ども安全パトロール実施中」のマグネットシートを常に貼り付けている。「非行や犯罪被害の抑止力になる」と仕事に合わせて、通学路などを巡回する。

大人が変われば

少年補導員を32年間続ける
おおはただまさ
大畑 忠正 さん
(少年補導連絡会 会長)

